

ようじえんだより 2019年度6月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

6月主題『関わり合う』

主題聖句：息あるものはこぞって、主を賛美せよ。ハレルヤ 詩編150編6節

☆ 0～2歳児：保育者のさんびや祈りの言葉に心を合わせようとする。わらべ歌や手遊びを通して言葉のリズムを楽しむ。主張やこだわりを認めてもらいながら生活する。保育者や友だちに興味、関心をもってかかわる。

☆ 3～5歳児：神さまが創られた世界を知る。砂・泥・水に触れて遊ぶ中で心地よさを味わう。自分でしたいことが増え、楽しさを感じるとともに葛藤も味わう。絵本やお話を通して、豊かな言葉に出会う。

人手不足の中で

人手不足が各業界で深刻になっています。これは景気回復の影響というよりも、団塊の世代が大量退職の時期を迎えて労働力人口そのものが減少していて、それが地方では人口減少も相まってより顕著になっているようです。保育業界も少子化で園児が減っていますが、同時に保育士も減っていて保育士確保が一苦労な施設がたくさんあります。これからの時代は園児数確保はもちろんのこと、保育士を確保できる園であること(長く勤めてもらえる職場であること)がより求められることでしょう。

この人手不足は、キリスト教会の世界でも起こっています。教会に集う人が減っているのですが、牧師も減っています。牧師にお給料を出せる教会も減っていますから、相殺されるとも言えるのですが、そもそも常駐の牧師がいなく、礼拝も牧師なしで行っている教会が増えているのです。その状況を打開するために複数の教会を担当する牧師も増えてきています。世の中で起こっていることの多くは、このように宗教団体の世界でも起こっているのです。

DoingからBeingへ

「福音と世界」というキリスト教系の雑誌があるのですが、そこに書かれた「Doing church からBeing churchへ」は大変示唆に富む内容でした。教会でも世間同様右肩上がりの成果主義の志向が見られるということ、その中で教会に来る人が癒しよりも疲れを覚え、希望を見いだせない現状があること、し烈な生存競争を強いられるこの世にあって、教会は成果主義のような doing church(何かをする教会)ではなく、being church(そこにいることそのものを肯定される場所)として存在することにこそ価値がある、という内容でした。心の底から「その通り!」と思いました。

子育て(人材育成)も同じです。子どもの姿を成果主義で捉えるのでは多くの場合、減点方式になります。しかし「あなたがいてくれるからうれしい」というまなざしの中で、人は愛情を感じ、安心して育っていけるのだと思います。空前の人手不足ですが、この状況の中でこそ、「一人一人を大切にする」という幸せの原点を確認したいと思います。園長:久保田愛策

年間主題『ことばに満たされて～ひびきあう～』

主題聖句：その人は流れのほとりに植えられた木。

旧約聖書 詩編1編3節